

整形外科開設記念日

昭和七年(1932)五月三十日

従来久留米市立病院ヲ付属病院トシテ使用 整形外科ハ中原(旧姓徳永)獅郎
助教授担当 外科トシテ診療至リシモノヲ付属病院落成ト共ニ外科ヨリ分離
シ 田平整形外科トシテ独立セリ。依テ本日ヲ以テ整形外科開設記念日トス。

整形外科 教室 規約

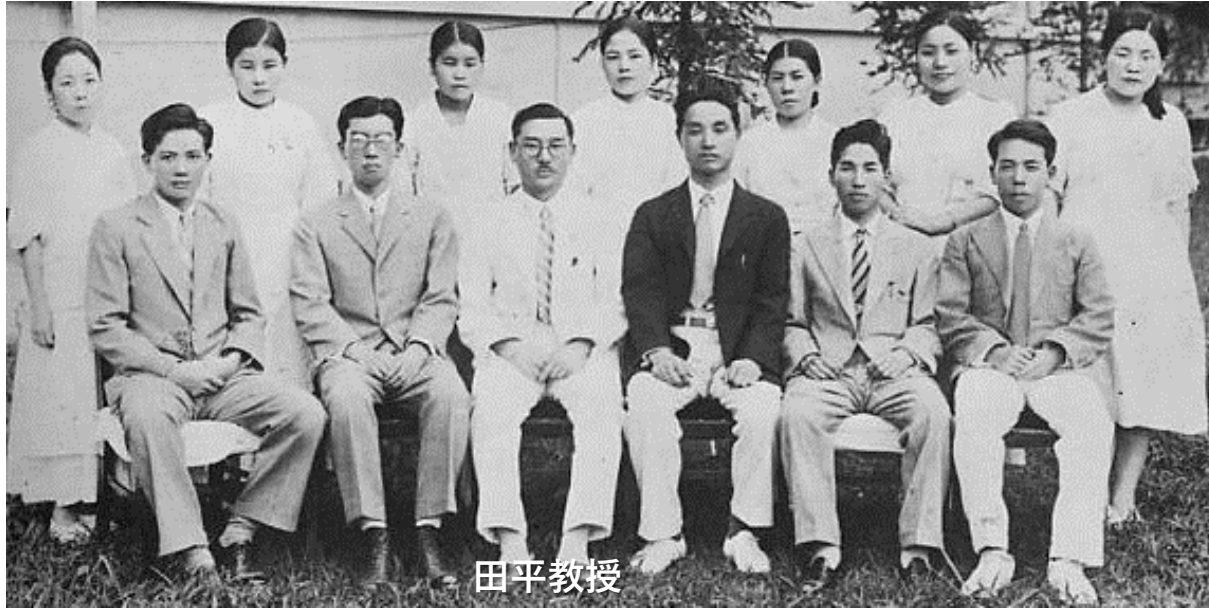
1. 醫局員ハ礼節ヲ重ンジ 親和ヲ念ハスベシ
2. 醫局ハ神聖ニシテ侵スベカラズ 言動、行動ヲ
慎ムコト
3. 清潔 整頓、火氣等 充分注意スルコト
4. 新入医局員ヨリ 入局費各 5.00円
各医局員ヨリ 毎月 0.50円 ノ医局費ヲ
徴收ス
5. 医局費 ハ研究 其ノ他医局員ノ幸、不幸等
使用シ 飲食ニ使用ス可カラザル事
特ニ必要ト認メタル場合ハ此ノ限りニ非ズ
6. 医局費、出納ハ 医局長 其ノ責ニ任ズ

整形外科 教室 規約

1. 医局員ハ礼節ヲ重ンジ 親和ヲ念トスベシ
2. 医局ハ神聖ニシテ侵スベカラズ 言動、行動ヲ
慎ムコト
3. 清潔 整頓、火氣等 充分注意スルコト
4. 新入医局員ヨリ 入局費各 5.00円
各医局員ヨリ 毎月 0.50円 ノ医局費ヲ 徴收ス
5. 医局費 ハ研究 其ノ他医局員ノ幸、不幸 等ニ
使用シ 飲食ニ使用ス可ラザル事
特ニ必要ト認メタル場合ハ此ノ限りニ非ズ
6. 医局費ノ出納ハ医局長 ソノ責ニ任ズ

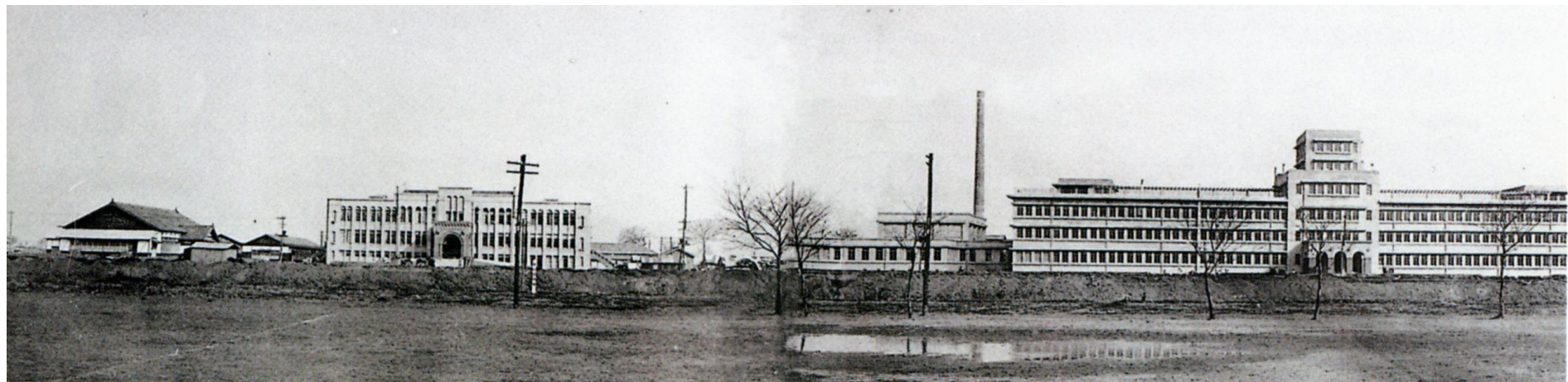
(医局日誌より)

昭和7(1932)年5月 初代 田平 栄造 教授 就任



田平教授

昭和8(1933)年4月1日田平教授以下教室員、看護師等職員



当時の学校本館(左側:現在の大学本部)と附属病院(右側)

田平教授時代の記録（医局日誌より）

昭和八(1933)年三月十九日（月）

大腿骨骨折手術患者突然死亡（当直医 外科 小澤君）

患者ノ付添ハ「石膏ニ当ル部ガ痛ンデ寝レナイト云ツタトキ当直ノ先生ガ注射ヲシタ。ソノ後急ニ悪クナツタ」ト云ツテイル。

注射ハパピナル0.8g. Herzgiftトシテ働イタトモ思ワレルガ不詳ナリ。

昭和八(1933)年六月十三日

股関節改造手術（第一例）

術者 田平 栄造 教授

昭和八(1933)年十一月九日 往診手術

陳旧性上膊骨骨折 平戸町 森永外科病院ヨリ招ジラレ、原、森永先生、甲斐隆君ト3人ニテ手術。五時間ヲ要ス。牛骨シーネ、全シュラウベ 用ウ。

昭和九(1934)年一月三十日 大腿切断手術（第一例）

術者 田平先生 石井氏 膝関節結核

皮膚ノ切開アリ 截断刀ヲ以テ一気ニ筋肉ヲ切断サレタトキハ筋肉ノ収縮ノ為ニ“ドッ”ト手応エアリ。勇壮デアリ又悲壮デアツタ。

昭和九(1934)年二月二日（月） 兔唇手術（第三度）

術者 原

昭和8(1933)年～9(1934)年の会報(田平教授時代)

- 小学生児童ニ見ル顙上骨折(田平 栄造)
- 脊椎前方滑脱症(並びに分離症ニ対スル
アルビー氏手術(田平 栄造))
- 左上膊骨烏口突起下脱臼の一例(原 文吉)
- 先天性内翻手及び内翻足の一例(原 文吉)
- 弾発指(特殊職業ニ見ラル)(真武 七郎)
- ロバートソンラバル氏手術(木村)
- ペルテス氏病ニ就テ(李 六)
- 麻痺性尖足手術三例(原 文吉)
- 畸形性股関節炎の手術成績(原 文吉)
- 我教室ニ於ケル先天性股関節脱臼ノ統計的観察(土方 春彦)



初代 田平 栄造 教授 昭和7(1932)年～昭和10(1935)年

神中教授の推薦で開講前年、31歳で外科学講師として赴任。翌昭和7年、整形外科学講座開講とともに教授就任。退任後は鹿児島市で開業し、昭和25年鹿児島県医師会長。

教室員は原文吉先生一人、九大整形外科より稲永看護婦に来てもらって三人でいろいろな整備をするという有様でした。主な器械はHahnの万能手術台とAlbeeの骨手術器械一式のみで、大腿骨手術の際は当時の大島外科から助手の応援を頼んだことは今でも忘れられません。昭和8年に木村、真武七郎、甲斐隆、李六が入局し教室も大いに充実しました。

少しずつ軌道に乗り始めた時、父の急死で鹿児島に帰郷し、開業することになりました。在任は短い期間でありましたが、生涯の中の楽しい何年間であって、学校当局及び教室の諸君に感謝しております。

昭和37(1962)年 開講三十周年記念誌 寄稿文より抜粋